

私達の意識はどう高まり 一つにまとまったのか

石田友馬

(群馬県立渋川高等学校2年・修学旅行実行委員長)

2002年11月18日、沖縄平和祈念堂から連絡が入った。「今日平和集会を行った群馬県立渋川高校にはとても感心した。熱心な学校はたくさんあるが、生徒全員からの熱い視線を特に強く感じた」(山田昇作沖縄平和祈念堂管理事務所長)。同校の修学旅行は、生徒が主体となって実行委員会を作り実施したという。そこで同校に依頼して、修学旅行実行委員長を務めた石田友馬(いしだ・ゆうま)君に計画の段階から旅行実施までの取り組みと旅行を終えての感想を執筆いただいた。「自分たちで創り上げた修学旅行」の実行委員18名の奮闘レポートである。

はじめに

「自分たちで創り上げる修学旅行」。これは私達の修学旅行のメインテーマである。「自分たちで創り上げる」とは、旅行に行く2年生1人ひとりが「修学旅行に連れて行ってもらう」と考えるのではなく、1人ひとりが沖縄に行く目的、つまり、「何に興味を持ち、どこを訪れるかを心の中に持って出発する」ということを意味している。学校初の沖縄への修学旅行、自分にとっても高校生活初の大仕事である修学旅行委員長。どこまでテーマを達成できるのか、正直不安だった。しかし、先生方、一緒に旅行を創り上げた修学旅行委員のメンバー、そして何より学年全員の思いが集まって、最高の修学旅行になったと自負している。この私の気持ちは次頁のアンケート結果を見てもあらわにわかって頂けると思う。

では、その取り組みを簡単に振り返ってみたい。

18名の修学旅行実行委員

私達渋川高校2年生が、修学旅行で沖縄に行くことになった経緯を話しておこう。私達の学校では、3年間を1サイクルとして修学旅行先が変更されるのが慣例であったらしい。私達も、本来の流れならば広島か九州の方面に出かけるはずであった。ところが、事件は起こった。1年生の初めの頃だったと記憶しているが、修学旅行に関するアンケートが全員を対象に行われたのだ。これは、前校長先生の「色々なことを前向きに考えなさい」という私達への熱いメッセージであったことを、後で知ることになる。こうして私達の旅行先は、一番希望者の多かった「沖縄」と決まったのであった。

修学旅行アンケート結果（抜粋） %集計 回収率97.9%

1日目

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	全体
2 平和学習ライブ							
ノリノリ	30.0	33.3	26.8	51.3	57.9	45.9	40.9
ノリノリではないが楽しかった	37.5	35.9	56.1	35.9	21.1	37.8	37.4
イマイチ	17.5	23.1	12.2	2.6	10.5	2.7	11.4
全くダメ	10.0	7.7	0.0	5.1	5.3	10.8	6.5
その他	5.0	0.0	4.9	5.1	5.3	2.7	3.8

【主な意見・感じたこと】

- 1 沖縄到着時
暖かい 海がきれい
- 2 ライブ時
楽しかった皆で盛り上がった

2日目

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	全体
1 出発前							
寝坊はしませんでしたか							
バッチリ大丈夫	100.0	97.4	95.1	97.4	94.7	83.8	94.8
しちやいました	0.0	2.6	4.9	2.6	5.3	16.2	5.2
朝食バイキングはどうでしたか							
おいしかった	27.1	35.9	33.3	25.5	22.4	16.7	26.8
ふつう	41.7	51.3	47.9	59.6	44.9	75.0	53.4
あまりおいしくなかった	14.6	12.8	0.0	4.3	6.1	0.0	6.3
量が少なかった	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	0.0	1.0
品目が多かった	8.3	0.0	4.2	4.3	2.0	0.0	3.1
品目が少なかった	6.3	0.0	14.6	6.4	14.3	8.3	8.3
食べにくかった	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1	0.0	0.7
2 出発～平和セレモニー							
摩文仁の丘・平和の礎・平和祈念堂はどうでしたか							
とてもためになった	37.5	28.2	42.9	56.4	52.6	37.8	42.6
まあまあためになった	40.0	38.5	45.2	30.8	34.2	43.2	38.7
ふつう	15.0	15.4	11.9	10.3	10.5	13.5	12.8
あまりためにならなかった	7.5	17.9	0.0	0.0	2.6	5.4	5.6
ためにならなかった	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.4
3 昼食～ひめゆり資料館							
昼食の沖縄そばはどうでしたか							
おいしかった	23.6	36.8	15.7	21.7	48.9	28.2	29.2
ふつう	40.0	26.3	45.1	30.0	20.0	25.6	31.2
あまりおいしくなかった	21.8	21.1	23.5	13.3	11.1	23.1	19.0
量が多かった	3.6	0.0	2.0	15.0	0.0	2.6	3.9
量が少なかった	7.3	15.8	11.8	6.7	11.1	7.7	10.0
食べにくかった	0.0	0.0	2.0	13.3	0.0	0.0	2.5
その他	3.6	0.0	0.0	0.0	8.9	12.8	4.2
ひめゆり資料館はどうでしたか							
とてもためになった	50.0	40.9	65.0	75.7	61.0	61.5	59.0
まあまあためになった	32.5	22.7	25.0	21.6	19.5	23.1	24.1
ふつう	12.5	27.3	10.0	2.7	9.8	10.3	12.1
あまりためにならなかった	2.5	9.1	0.0	0.0	4.9	5.1	3.6
ためにならなかった	2.5	0.0	0.0	0.0	4.9	0.0	1.2
平和学習を十分行えましたか							
よくできた	23.1	15.8	29.3	33.3	34.2	25.0	26.8
だいたいできた	64.1	55.3	65.9	53.8	50.0	41.7	55.1
あまりできなかった	7.7	28.9	4.9	5.1	10.5	33.3	15.1
できなかった	5.1	0.0	0.0	2.6	5.3	0.0	2.2
やる気もなかった	0.0	0.0	0.0	5.1	0.0	0.0	0.9
平和学習は今後も続けるべきですか							
はい	90.0	76.9	97.6	94.7	92.1	94.1	90.9
いいえ	10.0	23.1	2.4	5.3	7.9	5.9	9.1

豪華
微妙
おいしくなかった

戦争の恐ろしさを感じた
戦死者の数に衝撃を覚えた
リアルな話だった

戦争のない時代に生まれてよかった
かわいそうだった
学徒隊の手記は必見！

よく見れなかった所があった

戦争のことがよくわかった
つまらない

3日目

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	全体
4 運転手さんの対応はどうでしたか							
とてもよかった	60.0	53.8	65.9	63.2	84.2	62.2	64.9
まあまあできた	27.5	33.3	22.0	26.3	5.3	24.3	23.1
ふつう	5.0	10.3	4.9	5.3	10.5	5.4	6.9
あまりよくなかった	7.5	2.6	4.9	5.3	0.0	8.1	4.7
よくなかった	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.4
7 その他							
修学旅行が沖縄でよかったですか							
はい、とても	62.5	79.5	88.9	92.3	89.5	76.5	81.5
違うところがよかった	37.5	20.5	11.1	7.7	10.5	23.5	18.5

親切で楽しませてくれた
いろいろ話してくれた
穴場を教えてくれた
口下手だった

あと1日欲しかった
楽しかった
事前学習はしっかりやるべき
もっとゆっくり見たかった

2年生に進級し、新クラスでの生活が始まった。クラスの役員決めの日、読書好きの私は図書委員になるつもりだった。しかし、その思いは夕立のように突然やってきて、私の中に雷を落としていった。雷の火花は、「お祭り大好き人間」である自分の心に火をつけた。この「修学旅行実行委員になろう」という思いは、私の中で次第に大きな炎となって燃え上がっていくことになる。

私と同じ熱い思いを持ったクラスの代表18人が決定し、修学旅行実行委員会が結成された。修学旅行への取り組みはここから動き出した。

18人の奮闘記

修学旅行実行委員の多くが、「こんな早くから……」と思うほど早く、他の委員会にも先んじて、4月の終わりに第1回の実行委員会が開かれた。冒頭担当の先生と学年主任の先生からの「いつもと違う修学旅行にしないか」という問いかけに、18人の目が輝いた。とは言っても第1回の委員会はごく平凡なもので、委員会内における各人の役割分担を決めること。旅行委員の中心になる委員長をはじめとした総務のメンバーになるか、それともコースを決めたり、食事を決めたりする各系の中心メンバーとなるか。次回の委員会までに各自の思いを決めてくること、という宿題が出された。

私の転機はまた突然だった。部活帰りに昇降口を目指して歩を進めていると、廊下ですれ違いざまに旅行担当のH先生が一言。

「委員長はお前しかいないよな」

正直悩んだ。部活もある、勉強もある。悩んだまま2回目の会議に臨んだ私は、修学旅行委員長に立候補するものという問いかけにまっすぐに手を挙げていた。

私を含め総務・企画係が5人。コース・学習、食事、輸送、宿泊、風紀・マナー、保健、記録・写真・コン

テストの各係が18人のメンバーに割り振られた。この委員会で決定された最も特徴的なことは二つ。一つは、修学旅行実行委員会を毎週1回の定例会議とすること。もう一つは、総務・企画会議をそれに先だって必ず行うこと。組織作りが完成した。

4回目の会議で、学年全体に向けて修学旅行の広報を出すことが決定される。これは、「自分たちで創り上げる修学旅行」というテーマ達成にとって最も大切なものである。旅行委員の中から、いくら旅行委員がやる気になっても、旅行委員以外の人達がやる気を起こしてくれなくてはどうにもならない、という意見が出され、では、どうしたら修学旅行委員以外の人達の意識を高められるのか、という視点から考え出されたことである。広報を頻繁に発行することによって、旅行委員の行っていることや考えてもらいたいことを常に旅行委員以外の人達に知らせ、修学旅行を高校生活の日常の中に存在させることができれば、学年全体の意識が高まるのではないかと思ったのである。頻繁な発行は、旅行委員、中でも総務・企画係の書記担当に相当な無理を強いることになった。しかし、広報は私達修学旅行実行委員と学年の他の生徒達とのパイプであり、「Q & Aのコーナー」を作ったり、「タイトルコンテスト」等を行い、少しずつではあるが、このパイプは太くなっていき、学年全体に私達修学旅行実行委員の思いややる気が伝わっていった。タイトルコンテストで決定したこの広報の名前が、『ザ・ちゅらしま』（次頁）である。

『ザ・ちゅらしま』の発行内容が底をついた頃、H先生が渡してくれた某週刊誌のコピーに、沖縄返還30周年の特集記事があった。慰霊碑の前でVサインをして写真をとる中高年の観光客の写真。その意識の低下を嘆く内容を読んで、総務・企画のメンバーは次の特集はこれしかないと思った。

最近、多くの進学校で修学旅行が廃止されつつあると聞いている。では、なぜ渋川高校の修学旅行は続けられているのか。その理由は、過去の行き先を見れば



わかる。広島、長崎。そう世界で唯一原爆が落とされた国である日本の歴史、戦争の歴史を学ぶためだ。沖縄は日本で唯一地上戦が行われた場所。その地上戦で多くの民間人が命を奪われた場所だ。このまま飛行機に乗ってしまったら、私達も戦跡の前でVサインをしてしまうのではないかと。沖縄の地を踏む前に、私達にとって沖縄戦の事実を学習することは必要不可欠なことだと思われた。

総務・企画の5人は定例会議で了承を取り、早速沖

縄戦の資料集めを開始した。学校や市の図書館で資料を読みあさった。ひめゆり学徒隊の話、爆破される避難船、15万人を超える死者……全てが自分たちの想像をはるかに越える規模で展開されていた。私達は改めて自分たちの「無知」を感じた。「無知である恐ろしさ」も実感した。この思いを、学年全体に広げなければならない。いや、広がって当たり前のことのはずだ。2年生全員が沖縄で起こった悲劇を理解した上でその地を踏まなくては、と思った。『ザ・ちゅらしま』の

この特集は3号にわたった。

6月、旅行日程の概要が決定。1日目は沖縄音楽、2日目は沖縄戦を学ぶ平和学習、3日目は、沖縄の伝統・文化に触れる体験学習、最終日はクラス別見学。各係が『ザ・ちゅらしま』を活用し、部屋割、班別行動の方法（予算が不足することを覚悟で、2日間のタクシーによる見学を提案）、食事のメニュー等をアンケートを実施しながら決定していった。

夏休みを挟んで9月に突入。活動は更に本格化してきた。平和学習への意識が確実に高まってきている。それは自分たちで1から決定できる2、3日目のコース決めではっきり示された。班別行動では、各班が1台ずつタクシーを貸し切り移動する。渋川高校だけで60台を超えるタクシーを利用させてもらう計算になる。移動時間や距離など全く行ったことのない場所を、地図だけを頼りに決定していくのはかなり困難な作業だ。心配してくれた旅行社の方から一応モデルコースが示されていたのだが、それをそのまま使う班はほとんどなかった。

しかし、200人を越す大人数を一つの目的に向かわせることの難しさを実感する事態も起きた。2学年の意識の高まりとまとまりに自信を持ち始めていた9月の半ば、ある授業中に「自分は沖縄以外のところに行きたかった」と発言する人が現れた。この時期になってなぜこのような声が出てくるのか。総務・企画係の5人をはじめとして、修学旅行実行委員は落ち込んだ。

9月末から、渋川高校ではあまり取り組んだことのない「修学旅行事前学習ノート」の作成が始まった。これは、落ち込んでいた修学旅行実行委員が各クラスの了承を取り付け、個人のレベルでより深い事前学習をすることを目的としたものである。他の学校ではこうして作成したノートを旅行の菜として使う場合が多いと聞いているが、今回の旅行では、修学旅行実行委員の各係がワープロを使用して菜を作成することになっていたため、この事前学習ノートを旅先まで持っていくか否かは個人の判断に任されていた。いわば本当

に事前学習のためだけのノートである。コース・学習係のメンバーによるチェックも行われ、班別行動で訪れる場所の歴史や見どころを旅行誌から書き写したり、中にはインターネットからダウンロード



した画像や資料を添付する人もいて、停滞した感のあった学年全体の意識とまとまりがもう一度高まりを見せ、この企画は大成功であった。

11月5日、旅行委員がすべて原稿を作成した旅行の菜『私イン沖縄』が完成した。もちろん表紙も公募し、各日程ごとにビニールの小さなポケットをつけたり、旅行後のコンテストの応募用紙を切取線付きで折り込んだりと工夫も凝らした。18人の血と汗のにじむ菜を手にとったときの達成感は忘れられない。これならいけると旅行成功の予感を感じながら、残る準備は各人の荷物輸送のみ。

出発まで、あと残り2週間だ。

いざ沖縄！ 旅行を通して学んだこと

11月17日、出発の朝が来た。出発式の挨拶で、私は次の7点を声高らかに読み上げた。

- 1 飛行機に乗っても、調子には乗るな！
- 2 戦争の惨さに息をのんでも、酒は飲むな！
- 3 戦争の惨さに気は落としても、財布は落とすな！
- 4 沖縄の美味しい空気は吸っても、煙草は吸うな！
- 5 ビーチで友達に水はかけても、迷惑はかけるな！
- 6 寝坊した友達は起こしても、トラブルは起こすな！

7 最高に、楽しみ、学べ！

クラスの友人たちが自然と私の言葉を復唱してくれた。この復唱の声は次第に大きくなった。全てを全員で言い終わった後に起こった240余名の大歓声は、私の心に一生焼きついて消えないだろう。

沖縄に到着し、ライブハウス「チャクラ」で喜納昌吉さんの平和学習ライブに臨んだ。昌吉さんの掲げる「すべての武器を楽器に」というスローガンは、私達の胸を熱くさせた。初めは大人しかった私達も、「皆さんと一緒に歌って踊って、本当の笑顔、心からの笑顔を見たい」という本気で平和を願い、行動する昌吉さんの言葉につき動かされ、踊り歌うことで一つになった。昌吉さんの歌声と「花」のメロディーを思い出す時、私達も昌吉さんと同じく世界平和に対する想いを新たにするとすると思う。

2日目は、前日を動とするならば、同じく平和への想いを強く感じた静の1日であった。平和祈念堂で全員で聴いた館長さんのありのままのお話は、そのリアルさゆえに思わず、顔をしかめ、うめき声が出てしまうほどであった。爆弾の雨、逃げまどう村の人々。今の私達には想像も出来ない地獄を見た人々がいるのだ、と思うと胸が痛んだ。前日はしゃぎすぎて寝不足のためか頭の下がる友人を、後ろの人がそっと起こす姿に、事前の平和学習の成果が垣間見られた。私の読み上げた誓いのことばは、240余名の、平和を守り2度と沖縄の悲劇を繰り返してはならないという偽らざる決意であったと思う。

ひめゆりの塔の資料館でも、ひめゆり学徒隊の、私達とほとんど年齢の変わらない少年少女達が体験した真実を、その手記を読むことで体感し、沈黙することしか出来ないほどの大きなショックを受けた。国のために命を捨てる、今の私達には到底考えられないことだ。アンケートでも見学時間が短かったと書かれているとおり、平和の尊さを実感させられた沖縄の中でも忘れられない場所である。

午後の班別行動で私が訪れた糸数壕も、闇が支配す

る洞窟の中で、多くの人々が怪我や飢えに苦しみながらその生を燃やしていたと思うと、心が重くなった。しかし、これは過去のありのままの姿なのだ。事実を受け止め、平和の大切さを私達が後世に伝えていかなければならないのだ。

3日目は、終日タクシーによる班別行動で、2日目にもお世話になったドライバーさんとは、どの班も親しく話ができ、穴場を教えてもらったり、少し寄り道をさせてもらったりと本当にお世話になった。沖縄の地元の人々の世話好きで優しい人柄に触れられて本当に良かったと思う。群馬との文化・伝統の違いにも驚きの連続だった。琉球ガラスの美しさ、グラスポートから見た碧い海の景観。白い砂浜、沖縄そば……皆、童心に返ってはしゃいでいた。

最終日、名残を惜しむかのように散策した国際通り。戦後の沖縄でいち早く復興し、街に活気を与えたこの通りは、今も街の人の活気で満ちあふれていた。その笑顔からは戦争の傷跡は感じられない。そのことが逆に、私を複雑な心境にさせた。

240余名の誰もが、もう一度訪れたいと感じさせてくれた沖縄。私達の3泊4日の修学旅行が終わった。

さいごに

修学旅行は学校の行事の中でその役割を終わったと言われていると聴く。それは、修学旅行が「連れて行ってもらうだけの観光旅行」になっているからではないか、これが私の偽らざる意見だ。私達の修学旅行は、アンケート結果だけを見れば、「成功した」と言えると思う。しかし、本当に成功したかどうかは私達のこれからの生き方で決まるのではないか。なぜなら、美しい沖縄のそこかしこに残っていた傷跡、戦争について熱心に語ってくれたバスガイドさんやタクシーのドライバーさんの顔つき、これらから感じた平和への想いを、私達がどうこれからの生き方に、社会に生かせるかにかかっていると思うからである。